

波瀾万丈国会へのご招待

参議院議員 松野 信夫

7月29日に実施された参議院選挙は自民党の歴史的惨敗に終わった。注目された1人区は民主党の23勝6敗であり、私も1人区の熊本選挙区で当選することができた。私自身は水俣病国賠訴訟弁護団の一員として裁判闘争を進める過程で、政治が良くなければ公害問題や人権問題は解決しない、との思いが昂じて政治家への道を進むことになり、2003年11月に衆議院総選挙で初当選した。05年9月の郵政解散総選挙で落選したが、今回の参院選で再び国会に戻るようになった。

参院選への出馬表明をした3月時点では、正直言って当選は厳しいと思っていた。しかし、政治の世界はまさに一寸先は闇の世界で何が起こるかわからないとつくづく思う。年金問題、政治とカネ、大臣の失言などによる追い風が吹こうとは予想もしていなかった。また、国民の多くは安倍総理の国家主義的な色合いに不安や疑念を持っていたのであろう。

さて、当選後も政界はめまぐるしく動いた。安倍総理の続投表明にも驚いたが、さらに9月10日に所信表明演説をしておきながら12日に突然辞意を表明することも全くの想定外であった。まさに波瀾万丈の政界である。こうした政局を面白がって選挙大好きというような政治家もいるが、私自身は政局よりも政策を着実に積み上げたいと願う方である。

世の中全体も小泉政権以来、市場原理主義によって何でも競争という状況が作り出され、社会全体が過度な競争社会になりすぎすぎた感があるが、政界も同じようである。しかし、政界は国民の負託を受けて国民のための政治を行わなければならないから、どちらの政策が優れているか、どちらがより国民のためになるか、その意味では大いなる競争をしなければならない。

政党にしても国会議員にしても、ある意味では強力な権力を持っているわけであるから、例えて言うならば、中小企業や個人自営業者ではなく、東芝と日立の競争のようなものである。だからこそ競争原理主義でもかまわないであろう。

臨時国会でも、テロ特措法延長にかわる新法案、年金保険料流用禁止法案、障害者自立支援法改正案、政治資金規正法改正案、肝炎対策緊急措置法案など重要法案が目白押しである。それぞれの法案では与党案、野党案がそれぞれ提示されるから、どちらがより優れているか、より多くの国民のハートを掴むことが出来るか、これは競争であり、こうした競争ならば大いにやらなければならない。

ただし、弁護士出身者からみると、法曹界では事実と理屈で勝負できるのであるが、政界ではかなり異なる。政界でも、事実と理屈が大きなウエイトを占めるが、それ以外

にもパフォーマンスが上手か、より多数を結集できるか、いわば声の大きいかなどという要素で勝負がなされるので、事はそう単純ではないし、戸惑うこともしばしばである。しかし、何と云っても、裁判の世界と同様に事実こそ一番の力であることも実感している。だからこそ国会内でいざ論争になったときに、具体的にどれだけの事実を突きつけられるかが大きな勝負の分かれ目だ。その意味では、弁護士としての経験を活かして、証拠に基づく事実を元に、責任を追及したり、より公正、公平な制度設計を求める姿勢こそ必須である。是非とも多くの弁護士が政界に進出して、単なるパフォーマンスではなく本当に国民の期待に応える政策を打ち出せるようなことを願うばかりである。

これまで参議院はともすれば衆議院のコピーではないかとも言われたり、中には不要論まであったが、いまや与野党逆転を受けて注目の的になっている。テロ特措延長問題をはじめ前記対決法案は参議院先議であり、攻防の主戦場になるから、是非ご注目いただきたい。

了